

帰省した隊員や学生が母校訪問

自衛隊静岡地方協力本部浜松出張所（所長・有吉将人1等空尉）は4月28日（月）から5月1日（木）の間、今年度入隊した隊員3人と高等工科大学校生1人の母校訪問に協力した。

4月28日は海上自衛隊に入隊した島津慶伍2等海士が浜松大平台高校、同30日は航空自衛隊に入隊した横山駿克2等空士と新村友歌2等空士が浜松東高校、5月1日は陸上自衛隊高等工科大学3年生の水谷孔紀生徒が市立北部中学校（いずれも浜松市）をそれぞれ訪れた。

4人は在学時の恩師や後輩などと久しぶりに再会し、自衛隊での生活など近況を報告した。恩師からは「見違えるほどたくましくなった」「たった1カ月ですっかり自衛官らしくなった。頼もしい」といった感嘆の声が聞かれた。

横山2士はサッカー部の後輩たちの前で自衛隊の魅力アピールし、自衛官を志したきっかけや、現在訓練を受けている教育隊での経験、工作や土木建築などの職種に進みたいこと、そして将来は父のような自衛官になりたいという熱い思いを伝えた。後輩たちは真剣な眼差しで話を傾け、充実した様子の横山2士を見て「自分もちよっと興味が湧いた」と関心を示していた。

浜松所は、今後も隊員の母校訪問を積極的に支援し、中高生にとって身近な先輩自衛隊員の生の声を届けることに尽力していく。



島津2士



水谷生徒



横山2士

ドラマで話題の救難隊も 高校生が浜松基地見学

自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・菊池雅也1等空尉）は5月23日（金）、精華学園高等学校掛川校の航空自衛隊浜松基地（浜松市）見学に協力した。

これは同校から依頼があり行ったもので、日頃見ることでできない自衛隊の施設や装備品を見学し、そこで働いている隊員の姿を通して働くことの意義や苦勞を知り、生徒の将来の職業観に繋げることが目的。生徒9人と教員2人が参加した。

最初に、空自救難教育隊（小牧基地）が舞台のドラマ「PJ」でも話題の救難隊を訪れた。部隊や任務について説明を聞いた後、ドラマにも登場するUH-60J救難ヘリコプターの内部を見学した。

次に、第1術科学校の格納庫でF-15戦闘機を見学した。整備員から説明を聞き、生徒も教員も興味津々な様子で「戦闘機の速さに驚いた」「パイロットになって飛行機に乗ってみたい」と話していた。

午後は、消防小隊で航空機の火災などにも対処できる破壊機救難消防車や放水展示を見学し、防火服を試着体験した。

基地の警備を担当している警備小隊では、自衛隊の合図として使われるらっぱ吹奏、徒手格闘の展示、防弾チョッキの着用体験などを行った。

見学終了後、自衛隊の受験を希望している生徒は「自衛隊にはいろいろなお仕事があり、陸上自衛隊の受験を考えていたが航空自衛隊も魅力的で迷う」と話し、ほかの生徒からも「対応してくれた自衛官が優しかった」など、好印象な感想が聞かれた。袋井所は、今後も部隊と連携し、基地見学等を活用した積極的な広報活動に努めていく。



UH-60J 見学



消防小隊